

HDD AV ナビシステム

取り付けと接続

お買い上げいただきありがとうございます。



本機は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故の原因となります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

販売店様へのお願い

本機の取り付け後、この「取り付けと接続」は、必ずお客様へご返却ください。

NVX-Z555

目次

⚠警告 安全のために	3
「取り付けと接続」部品の確認	6
取り付け場所の確認	7
1 接続する	8
接続する前に	8
車両側と接続する（付属部品）	10
車両側と接続する（別売り品）	12
各コードの接続について	13
2 本機を取り付ける	14
取り付ける前に	14
取り付け場所	14
3 フィルムアンテナを取り付ける	18
取り付ける前に	18
貼り付け位置について	19
4 GPSアンテナを取り付ける	26
車内に取り付ける場合	26
車外に取り付ける場合	27
5 取り付けと接続が終わったら	28
車のエンジンをかけて起動させる	28
故障かな？と思ったら	29

**警告**

安全のために

警告表示の意味

「取り付けと接続」および取扱説明書では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

**警告**

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

**注意**

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり自動車に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



火災



感電

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止

行為を指示する記号



指示

**警告**

火災



感電

下記の注意を守らないと**火災・感電により死亡や大けが**の原因となります。

取り付けはお買い上げ店に依頼する

本機の実装には専門知識が必要です。万一、ご自分で取り付けるときは、「取り付けと接続」の説明に従って、正しく取り付けてください。正しい取り付けをしないと、火災や感電の原因となります。



指示



前方の視界を妨げる場所に取り付けない

前方の視界の妨げになると、事故やけがの原因となります。



禁止

規定容量のヒューズを使う

ヒューズを交換するときは、必ずヒューズに記された規定容量のアンペア数のものをお使いください。規定容量を超えるヒューズを使うと、火災の原因となります。



指示

24V車に使用しない

本機はDC12Vマイナスアース車専用です。大型トラックや寒冷地仕様のディーゼル車など、24V車で使用すると火災などの原因となります。



禁止



エアバッグシステムの動作を妨げになる場所には取り付けない

動作の妨げになる場所に取り付けると、エアバッグが正常に動かず、けがの原因となります。



禁止



禁止

雨、水がかかる場所、湿気、ほこりの多い場所には取り付けない

上記のような場所に取り付けると、火災や感電の原因となります。



下記の注意を守らないと**火災・感電により死亡や大けがの原因となります。**

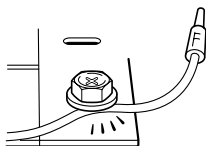
運転操作や車体の可動部の妨げになる場所には取り付けない

運転の妨げになる場所、車体の可動部の妨げになる場所に取り付けや配線をすると、事故や感電、火災の原因となります。

- ネジやシートレールなどの可動部にコード類をはさみ込まない。
- コード類はまとめる。
- ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどが正しく操作できることを確認する。



禁止



取り付け、接続作業をするときには、必ずイグニッションキーをOFFにするか、キーを抜いておく

イグニッションキーをONにしたまま作業をすると、バッテリーあがりや、ショートによりヒューズ飛びや発煙などの原因となります。



指示

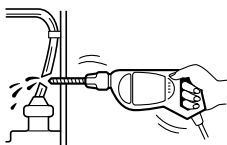


パイプ類、タンク、電気配線などを傷つけない

火災の原因となります。車体に穴を開けて取り付けるときは、パイプ類、タンク、電気配線などの位置を確認してください。



禁止



車の性能を維持するための部品を使わない

車体のボルトやナットを利用するとき、ステアリングやブレーキ系統、タンクなどの部品を使うと、制動不能や火災の原因となります。

- ステアリング系統
- ブレーキ系統
- タンク類など



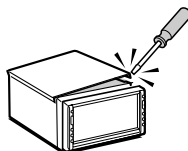
禁止

分解や改造をしない

火災や感電、事故の原因となります。電源リード線の被覆を切って、他の機器の電源を取ると、リード線の電流容量を超えてしまいます。内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。



分解禁止



付属の部品で正しく取り付ける

他の部品を使うと、機器の内部を傷つける、しっかり固定できないなどで、火災やけがの原因となることがあります。



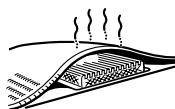
指示

本機の通気口をふさがない

通気口をふさいだ状態で動作させると、内部に熱がこもり、火災などの原因となることがあります。



禁止

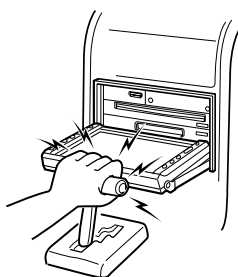


運転操作の妨げになる場合には取り付けない

車両によっては、フロントパネルが開いたときに運転操作の妨げになる場合があります。このような場合は本機を取り付けしないでください。事故の原因となります。



禁止





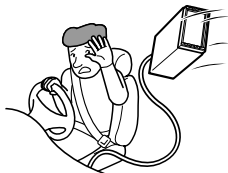
下記の注意を守らないと**けが**をしたり**自動車に損害**を与えたりすることがあります。

不安定な場所に取り付けない

振動の多いところや、天井などに取り付けると、製品が動く、落ちるなどにより、事故やけがの原因となることがあります。



禁止

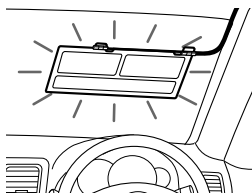


フィルムアンテナを前方の視界を妨げる場所に取り付けない

前方の視界の妨げになると事故やけがの原因となることがあります。「取り付けと接続」の説明に従って正しい場所に取り付けてください。



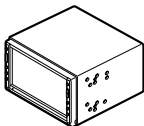
禁止



「取り付けと接続」部品の確認

この「取り付けと接続」に記載されている取り付け先または接続先の機器は、すべて別売り品です。ただし付属品は除きます。

① 本体



② 取り付け用 (⊕ K5×6)



×6

③ 取り付け用 (⊕ T5×6)



×6

④ 圧着式コネクタ



×3

⑤ GPSアンテナ



⑥ クッション



⑦ GPSアンテナ取り付け板

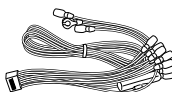


⑧ コードクランパー

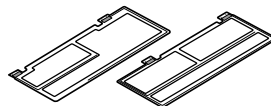


×2

⑨ 電源コード



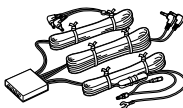
⑩ フィルムアンテナ (左右)



⑪ アンテナ入力ケーブル (左右)



⑫ TVアンテナアンプユニット



⑬ アーステープ



×2

⑭ スキージ (へら)

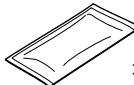


⑮ アンテナ用コードクランパー



×10

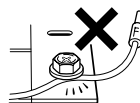
⑯ アンテナ用クリーニングクロス



×2

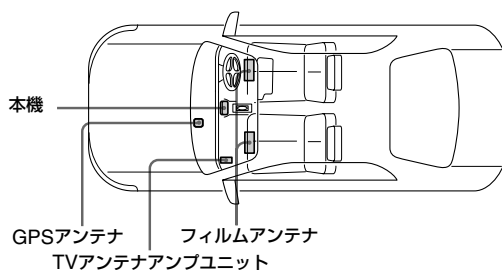
ビス・ナット類

- 必ず付属のビス類をお使いください。
- ビスやナットを締めるとき、他の配線をはさみ込まないようにご注意ください。
- 車体のボルトやナットを使って共締めやアースをするとき、ステアリングやブレーキ系統のものは絶対に使わないでください。
- 外したビス類は、小箱や袋に入れて紛失しないようにしてください。
- 外すビスの種類が多いときは、混同しないようにしてください。

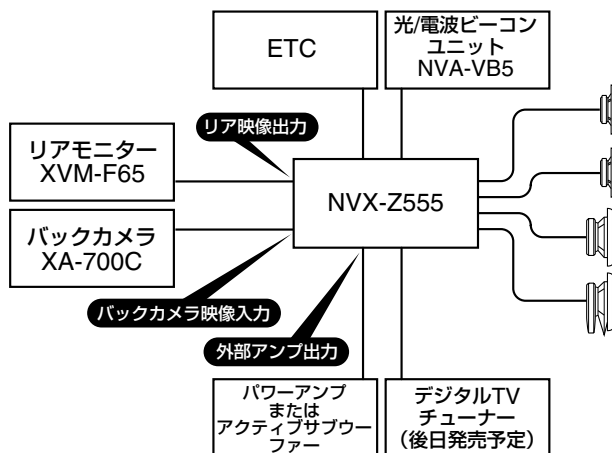


取付場所の確認（システム構成）

下図のように取り付けられるかどうか、取り付ける車に合わせて各ユニットを配置してください。



システム接続例



接続する前に

- この「取り付けと接続」に記載されている取り付け、接続先の機器は、付属品を除きすべて別売り品です。接続の際は、必ず接続先の機器に付属の説明書も併せてご覧ください。
別売り品の仕様については、お客様ご相談センターまたはお買い上げ店にご相談ください。
- TVアンテナケーブル、GPSアンテナケーブル、RCAピンコード、および電源コードの各コードは、できるだけ離して配置してください。ノイズの原因となります。
- コード類を外すときは、コネクター部分を持って抜いてください。
コードを引っ張ると、コードが抜けてしまうことがあります。
- 車両側から本機に配線する場合は、ソニー配線キットを必ずご使用ください。
配線キットをご使用にならないと故障の原因となる場合があります。当社では車種別配線キットを用意しておりますので、お買い上げ店にご相談ください。

本機の接続コードの色は、JEITAコードカラーに準拠しています。

次のコードは必ず接続してください。

接続しないと、故障の原因になり、正しく動作しないことがあります。

- 若草色コードを車両側のパーキングブレーキスイッチコードに接続する。
- 黄色コードを車両側のバッテリー電源へ接続する。
- 赤色コードを車両側のアクセサリ（ACC）電源へ接続する。
- 黒色コードを車体の金属部分へ接続する。
- 桃色コード（および桃色延長コード）を車両側の車速センサーコードに接続する。

* 黄色と赤色コードを逆につなぐと、メモリーが消えるので注意してください。

車両側のバックランプ電源コードと車速センサーコードについては、詳しくは、「カーフィッティングWebサービスのご案内」、「ソニーFAXインフォメーションサービス」（裏表紙）をご利用になるか、お買い上げ店にご相談ください。

ご注意

- 桃色コード（および桃色延長コード）を車速センサーに接続しないと、本機は正常に動作しません。
- 保護素子は正しい向きで取り付けてください。
- 圧着式コネクターは保護素子より車両側に近い位置にしてください。
- フィルムアンテナはFM/AMアンテナから離して取り付けてください。
- パーキングブレーキスイッチコードに接続しないと、ナビゲーションシステムが走行中と誤ってしまい、設定や登録などの複雑な操作ができなくなります。
- アクセサリ（ACC）ポジションの無い車には取り付けられません。

スピーカーを接続するときは

次のことをお守りください。スピーカーの故障や破損の原因になります。

- スピーカーを接続する前に、必ず本機の電源をOFFにしてください。
- インピーダンス4～8Ωのスピーカーをお使いください。
- 十分な許容入力を持つスピーカーをお使いください。
- スピーカーの⊕、⊖端子を車のシャーシなどに接続しないでください。
- 本機のスピーカーコードどうし（特に⊕端子どうし、⊖端子どうし）を接続しないでください。
- 既設の純正スピーカーコードを使う場合、左右のスピーカーコードの⊖側が共通になっているものは使わないでください。
- 本機のスピーカーコードにスピーカーを接続しない場合は、安全のため、端子にビニールテープを巻いてください。
- 本機のスピーカーコードにアクティブスピーカー（アンプ内蔵スピーカー）を接続すると、本機を破損するおそれがあります。アクティブスピーカーの使用を避け、通常のスピーカーをお使いください。
- トヨタ車や日産車、三菱車には当社のトレードインスピーカーがあります。くわしくは、お買い上げ店にご相談ください。
- 本機のアース用コード（黒色）をスピーカーの⊖端子に接続しないでください。

ヒューズについて

- 本体の後面にあるヒューズが切れたときは、配線などをチェックして必ず原因を確かめ、適切な処置をしてください。その後、ヒューズに記してある規定容量（アンペア数）のヒューズと交換してください。
- 本機のバッテリー電源用コード（黄色）を接続する前に、本機のヒューズ容量が車両側のヒューズ容量（ラジオまたはオーディオ電源）より小さい値であることを確認してください。判断が難しい場合は、お買い上げ店にご相談ください。

電源配線について

車種によっては、車両側の配線が細い（電流容量不足）ため、エンジンアイドリング時にライトやエアコンを動作させると、正常に動作しないことがあります。この場合は、電源コードRC-39を使って電源配線することをおすすめします。

純正アンテナブースターの接続

車種（リアまたはサイドガラスに内蔵しているプリント線状のFM/AMアンテナの場合）によっては、純正アンテナブースターの電源供給コード（車両側）に接続する必要があります。この場合はパワーアンテナコントロールコード（青色）または、アクセサリ電源用コード（赤色）を接続してください。くわしくは、お買い上げ店にご相談ください。

パワーアンテナをお使いになる場合

本機後面から出ている青色コードをパワーアンテナ（リレーボックス付き）に接続してお使いになると、ラジオの電源を入れた時にパワーアンテナが自動的に出ます。

車両側と接続する(付属部品)

① 車体の金属部分へ

車体の金属部分に確実にアースしてください。

ご注意

赤色コード、黄色コードおよび橙/白色コードを接続する前に、このコードをアースしてください。

② アクセサリー (ACC) 電源へ

車のキーをLOCKかOFFにすると電源供給が切れて、ACCにすると電源が入るところ(ラジオ回路など)に接続します。

ご注意

- 必ず先に黒色コードをアースしてから接続してください。
- バッテリー電源など、常時通電しているところには接続しないでください。バッテリーあがりの原因となります。

③ バッテリー (BAT) 電源へ(常時通電している電源へ)

車のキーの位置に関係なく、常時通電していてヒューズの容量値以上の電源が取れるところに接続します。イグニッションスイッチをOFFにすると、メモリー保持用の電流だけが流れます。

ご注意

- 必ず先に黒色コードをアースしてから接続してください。
- 以下のことを確認してください。異常が生じたとき車両のヒューズが先に切れ、他の機器が機能しなくなります。
 - 電源の黄色コードを接続するときは、本機のヒューズ容量が車両側(純正ラジオ用バックアップ電源)のヒューズ容量より小さい値であること。
 - アンプなどを接続したシステムで使用する場合は、総ヒューズ容量が車両側のヒューズ容量より小さい値であること。
 - 車両側の容量が小さい場合は、バッテリーから直接電源を引くこと。

④ 車両のイルミネーション電源へ

車のヘッドライト(スモールランプ)スイッチを入れたとき、本機のディスプレイが減光します。

ご注意

必ず先に黒色コードをアースしてから接続してください。

⑤ 外部アンプ電源へ

外部アンプの電源の接続専用コードです。他の機器へ接続すると故障の原因となります。

⑥ パワーアンテナコントロールコード、または純正アンテナブースターアンプの電源コードへ

ラジオの受信中は、このコードから12ボルトのコントロール用電源を供給します。くわしくはお手持ちのパワーアンテナの説明書をご覧ください。

ご注意

- 車種(リアまたはサイドガラスに内蔵しているプリント線状のFM/AMアンテナの場合)によっては、純正アンテナブースターの電源供給コード(車両側)に接続する必要があります。
- リレーボックスの付いていないパワーアンテナは使用できません。
- 車側にパワーアンテナや純正アンテナブースターがない場合、あるいは手動式のロッドアンテナの場合には接続の必要はありません。
- ノイズ防止のため、スピーカーコードや電源コードからできるだけ離して取り付け、配置してください。

⑦ 車体用パーキングブレーキスイッチコード

パーキングブレーキスイッチコードへの接続は安全のために必ず行ってください。

ご注意

パーキングブレーキスイッチコードは、車が走行中か停車中かを検知するために接続します。本機は安全のため、走行中にはテレビやビデオなどの動画表示は行わず、簡単な操作のみが行えるようになっています。パーキングブレーキスイッチコードを接続しないと、本機は停車中でも常時走行中と認識し、動画表示時には音声のみとなり、安全のためのメッセージを表示します。また、各種設定、登録など詳細な操作ができなくなります。

⑧ バックランプの電源コード

バック信号入力コードです。

⑨ 車速センサーコード

本機はデジタルパルス入力を想定しています。

ご注意

アナログノイズを発生する車に接続するには、別売りの車速パルス発生器XA-200Sを取り付けてください。(車種やタイヤによっては取り付けられない場合があります。詳しくは、お買い上げの販売店にご相談ください。)

*1 スピーカーの車両に取り付ける場合は、フロントスピーカーに接続してください。

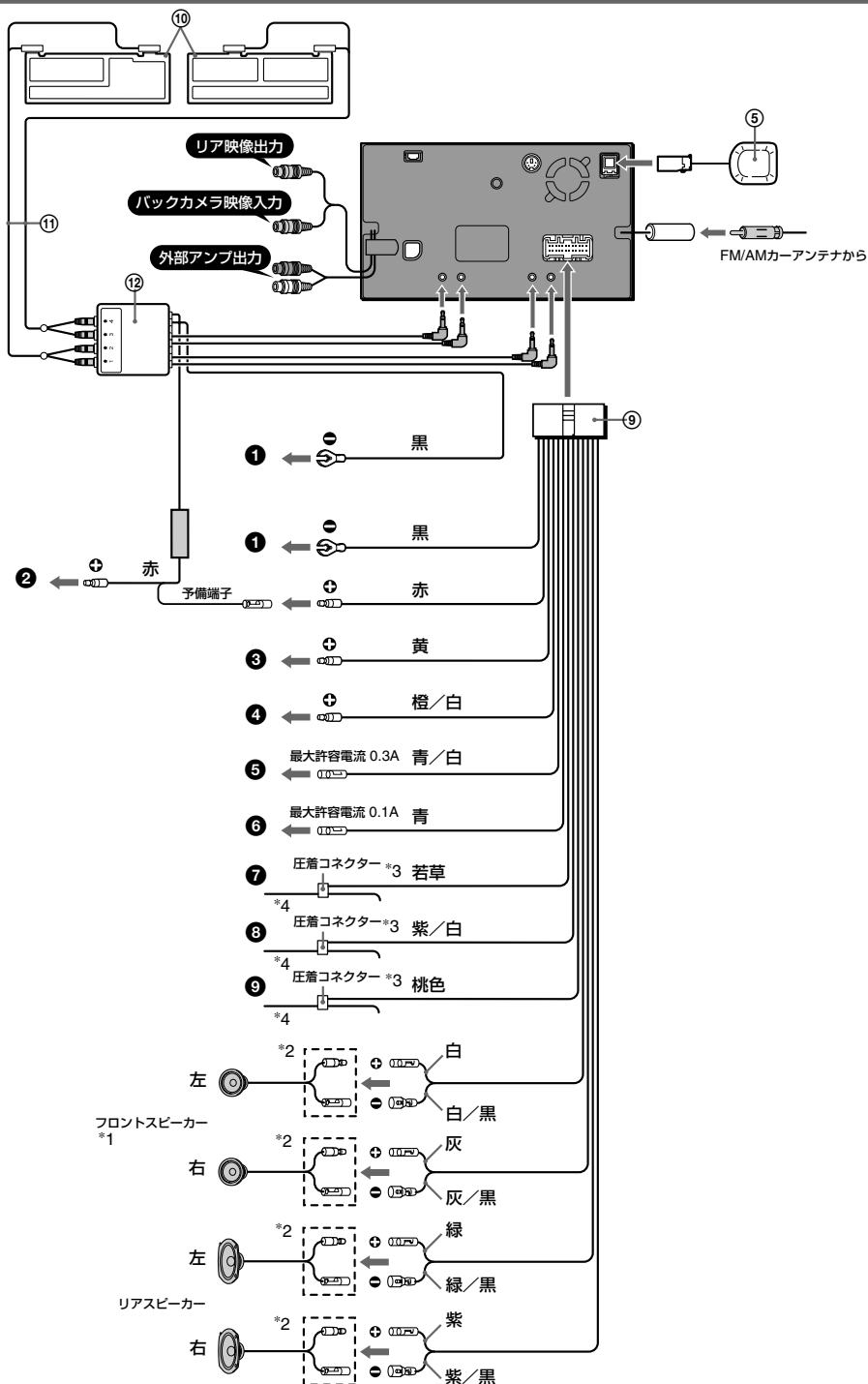
*2 スピーカーがギボシ端子に加工されていない場合は、市販のギボシ端子で加工し、接続してください。

*3 圧着式コネクタの使いかたは、13ページをご覧ください。

*4 パーキングブレーキスイッチコード、バックランプの電源コード、車速センサーコードの位置は車種により異なります。

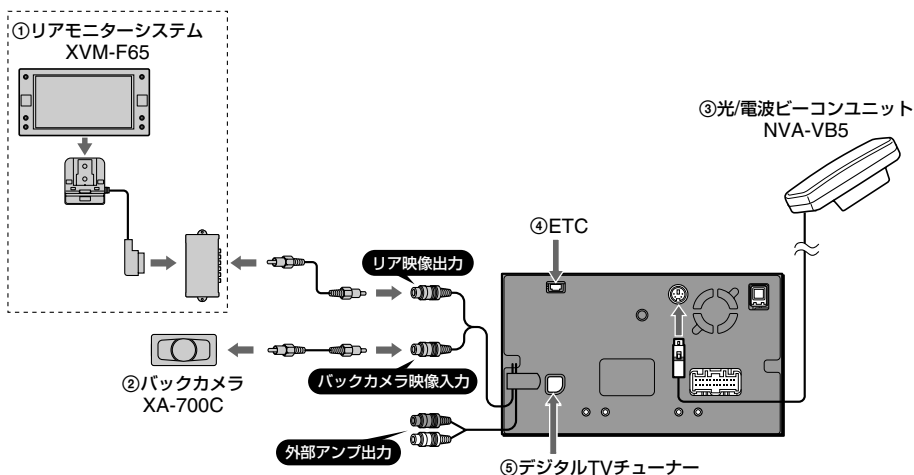
ご注意

接続コード、電源コードなどの各コードは、できるだけ離して取り付け、設置してください。接近した状態で設置すると、本機の画面が乱れることがあります。



車両側と接続する(別売り品)

くわしくは、各別売り品の取扱説明書をご確認ください。



① リアモニターシステム(XVM-F65)

本機に接続すると、ナビゲーションを使用中でも、6.5型ワイドモニターでテレビやDVDビデオの映像を見ることができます。

② バックカメラ(XA-700C)

本機に接続すると、車のバックギアに連動して、自動的に画面がバックカメラの映像に切り替わるように設定できます。

③ VICS対応光ビーコン/電波ビーコンユニット(NVA-VB5)

電波・光ビーコンを媒体として送られてくるVICS情報(レベル1~3)を本機で見ることができます。

④ ETC

接続ケーブル(RC-ETC1)を使用することで、市販の三菱電機製ETCユニットを接続することができます。

⑤ デジタルTVチューナー(後日発売予定)

車載用デジタルTVチューナーを接続すると、本機で地上波デジタル放送を視聴することができます。

※本機で利用できる市販品については、お買い上げの販売店におたずねください。

各コードの接続について

本機の接続コードの色は、JEITA*コードカラーに準拠しています。

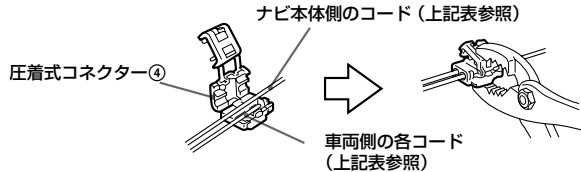
* JEITA は、(社) 電子情報技術産業協会の略称です。

ちょっと一言

右表にある車両側の各コードの位置は、取り付ける車両によって異なりますので、「ソニーFAXインフォメーションサービス」(裏表紙に記載) をご利用になるか、お買い上げ店にご相談ください。

ナビ本体側	車両側
桃色(車速信号入力) コード	車速センサーコード
紫/白色(バック信号入力) コード	バックランプの電源コード
若草色(パーキングブレーキ) コード	パーキングブレーキスイッチコード

圧着式コネクターの使いかた



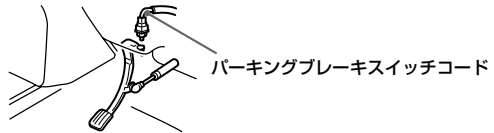
ご注意

車両側の各コードが細い場合、接触が不充分になることがありますのでご注意ください。

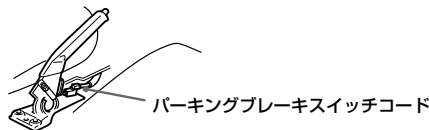
パーキングブレーキスイッチコードの位置について

パーキングブレーキスイッチコードの位置は車両によって異なります。下図は代表的な例ですが、くわしくはお買い上げ店にご相談ください。

パーキングブレーキがフットブレーキの場合



パーキングブレーキがハンドブレーキの場合



ちょっと一言

車の車速センサーコード、バックランプの電源コードとの接続には、次の役割がありますので、内容をご確認の上、必要とお好みに応じて接続するかどうかを決めてください。

- 車速センサーコードと接続すると、自律航法機能* が使用できます。車速センサーコードと接続した場合は、必ずバックランプの電源コードとの接続も行ってください。接続しないと、バック時に自車位置表示がずれてしまいます。
- バックランプの電源コードと接続すると、バックカメラ(別売り) 接続時に、バックカメラの自動切換機能** を使用できます。また、車速センサーコードと接続をした際には、車が後方向に進んでいることを検知します。

* 自律航法機能：トンネル内やビルの谷間などでGPS が受信できない時にも、自車位置を表示します。

** バックカメラの自動切換機能：シフトレバーをバックに入れると、バックカメラの画面に自動切換します。この機能を使うには、事前にメニュー設定が必要です。くわしくは本体取扱説明書をご覧ください。

ご注意

必ず接続先の機器に付属の取扱説明書もあわせてご覧ください。

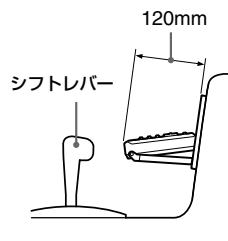
2

本体を取り付ける

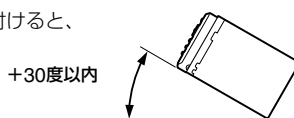
取り付ける前に

- 取り付けは慎重に行ってください。本体を落下させたり、ぶつけたり、無理な取り付けを行うと、シャーシが歪んで故障の原因となります。

- フロントパネルの開閉のためには、シフトレバーを一番前にした状態からフロントパネル部まで120mm以上が必要です。シフトレバーの位置によっては、ディスクの出し入れがしにくい場合やフロントパネル部がシフトレバーに当たる場合があります。シフトレバーを一番前にしたときに、車の操作の妨げにならないことを確認してください。



- 水平から+30度以内で取り付けてください。30度以上傾けて取り付けると、CDやMDの音飛びなどの原因となります。



取り付け場所

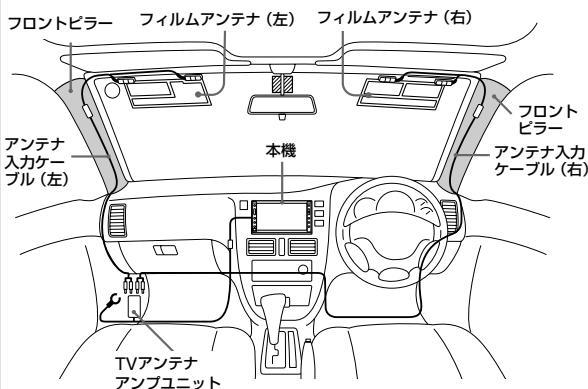
1

イグニッションキーをOFFにするか、キーを抜いておく

2

仮置きして（下図参照）、ケーブルの長さなどを確認する

下図のように取り付けられるかどうか、取り付ける車に合わせ各ユニットを配置してください。



取り付け角度について

路面の凹凸によって生じる振動を防止するために、なるべく水平になるように取り付けてください。傾ける場合は、水平から+30度以内で取り付けてください。

3

取り付け車種に合わせた準備をする

センターコンソールやインダッシュに取り付けるためには、車種により必要な準備が異なります。下記をご確認の上、必要な準備をしてください。

国産車に取り付ける場合

トヨタ車や三菱車のほとんどは純正カーステレオをはずして、その後に本体を取り付けられます。ただし、車種（一部のトヨタ車、スバル車など）によっては、クラスターパネルの開口部が本機の寸法より小さい場合があります。

日産車の場合は、別売り取り付けキットGMD-520のご使用をおすすめします。

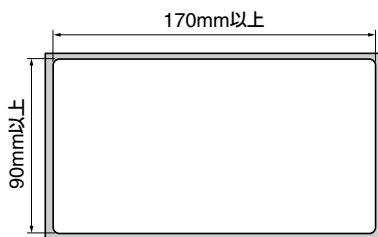
マツダ車の場合は、別売り取り付けキットGMD-401Aのご使用をおすすめします。

いかなる車種でもクラスターパネルの開口部が下記の寸法どおりになっているか必ず確認してください。寸法どおりになっていない場合は、下記の寸法図を参照して取り付ける車両のクラスターパネルの加工が必要となることがあります。（詳しくはお買い上げ店にご相談ください。）加工する際は、取り付け上の問題がないことを充分確認の上、加工を行ってください。

外国車/ 輸入車に取り付ける場合

いかなる車種でもクラスターパネルの開口部が下記の寸法どおりになっているか必ず確認してください。寸法どおりになっていない場合は、下記の寸法図を参照して取り付ける車両のクラスターパネルの加工が必要となることがあります。（詳しくはお買い上げ店にご相談ください。）加工する際は、取り付け上の問題がないことを充分確認の上、加工を行ってください。

クラスターパネル寸法図



4

純正カーステレオを取りはずす

センターコンソールやインダッシュから純正カーステレオを取りはずし、カーステレオを取り付けていた純正ブラケットを利用して、本機を取り付けます。

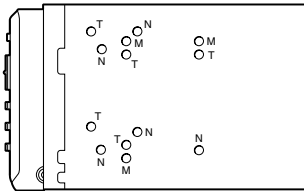
取りはずしかたが解からない場合は、「ソニーFAXインフォメーションサービス」またはSonyDrive（裏表紙に記載）をご利用になるか、お買い上げ店にご相談ください。

5

本機に純正ブラケットを取り付ける

本機に純正ブラケットを取り付け、インダッシュに取り付けます。本機側面に刻印されているマークにブラケットの取り付けネジ穴を合わせて、付属のネジ②または③で取り付けてください。

- 本機のフロントパネル部の表示窓を強く押したり、ボタンに強い力を加えたりしないでください。
- 本機の上部に物をはさみ込まないでください。



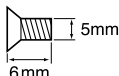
ご注意

- 本体のフロントパネルやインダッシュステーションに強い力を加えたりしないでください。
- インダッシュステーションの上に物をはさみ込まないでください。

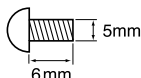
ご注意

- 取り付けネジは、必ず付属の皿ネジ②またはトラスネジ③で取り付けください。万一、紛失などにより他のネジで取り付ける場合は、必ず次のサイズのものをお使いください。

皿ネジ (M5)



トラスネジ (M5)

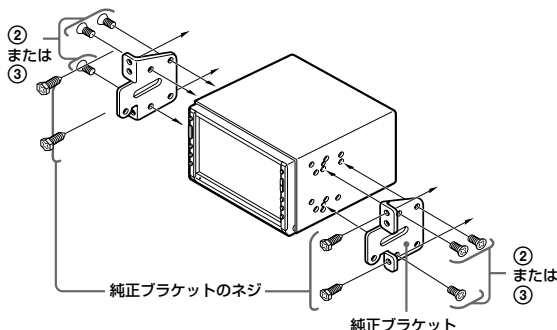


- 車両側の純正ブラケットを通さず、本体に直接ネジを締め付けると故障の原因となります。

トヨタ車/ 三菱車の場合 (イラストはトヨタ車の場合)

純正ブラケットを本体に取り付けます。

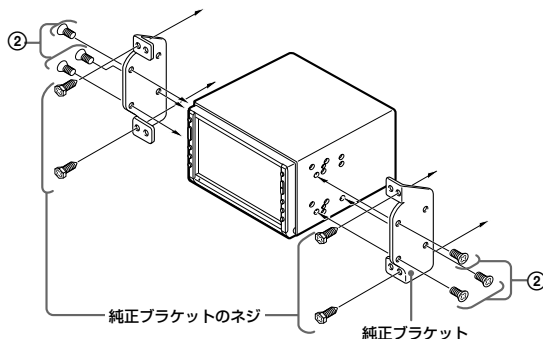
- 1 本体側面の、[T] (トヨタ車用/ 三菱車用) の刻印のあるネジ穴に、純正ブラケットの取り付けネジ穴を合わせる。
- 2 下記の付属のネジで取り付ける。
トヨタ車に取り付ける場合：皿ネジ②
三菱車に取り付ける場合：トラスネジ③



日産車の場合

純正ブラケットを本体に取り付けます。

- 1 本体側面の、[N] (日産車用) の刻印のあるネジ穴に、純正ブラケットの取り付けネジ穴を合わせる。
- 2 付属の皿ネジ②で取り付ける。

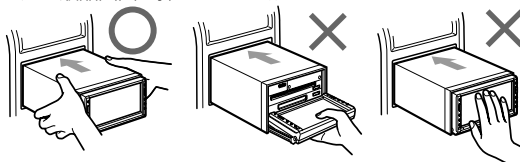


6 手順5で組み合わせたものをインダッシュへ取り付け

ご注意

シフトレバーを一番前にした状態からフロントパネル部まで120mm以上が必要です。シフトレバーを一番前にしたときに、車の操作の妨げにならないことを確認してください。

本機を車に取り付けるときは、必ずフロントパネルを開けた状態で作業してください。フロントパネルを持って取り付け作業を行うと、破損や故障の原因となります。また、液晶画面を押さないでください。



取り付ける前に

- 車種によっては、取り付けられない場合があります。下記のような場合には、別売りの外付けアンテナをご利用ください。詳しくは、販売店にご相談ください。
 - 電波を通さないガラス（熱線反射ガラス、断熱ガラス、電波不透過ガラスなど）を使用した車両では、受信感度が著しく低下します。
 - フロントピラーにエアバックを搭載している車両には、取り付けられません。
- フロントウィンドウの指定位置に指定寸法内で取り付けてください。
 - 「貼り付け許容範囲について」（次ページ）をよくお読みのうえ、正しく取り付けてください。道路運送車両の保全基準に適合させるため、貼り付け許容範囲からはみ出さないように貼り付けてください。
 - フロントガラスにFM/AM ラジオアンテナが内蔵されている場合は、干渉を避けるため、アンテナが重ならないように貼り付けてください。
 - 付属のフィルムアンテナはフロントウィンドウ専用です。リアウィンドウなど他の場所に取り付けると、受信感度が著しく低下します。
 - 取り付け手順の中で、アースを取るために、フロントピラーの内張りをはずす必要があります。お客様自身が取り付けをされる際に、フロントピラーの内張りの取りはずし作業が困難な場合は、車のお買い上げ店やディーラーにお問い合わせください。（作業工費はお客様にご負担いただく場合があります。）
- 水などでダッシュボードを汚さないように、布やシートなどで覆ってください。
- アンテナの表面保護用ビニールをはがしたあと、アンテナ貼付面には手をふれないでください。指紋やゴミが付着し、とれません。

フィルムアンテナ取り付けの流れ

取り付けの手順は次のとおりです。

- 1 フィルムアンテナの貼り付け位置やケーブルの引き回しなどを検討する。
- 2 フィルムアンテナの貼り付け位置を確認する。
- 3 フロントウィンドウ両端のフロントピラー（内張り）を取りはずす。
- 4 フィルムアンテナをフロントガラスに貼り付ける。
- 5 フィルムアンテナが完全に乾いていることを確認してから、アンテナ入力ケーブルをフィルムアンテナに取り付ける。
- 6 アンテナ入力ケーブルを車に配線する。
- 7 TVアンテナアンプユニットを取り付ける。
- 8 フロントピラー（内張り）を元に戻す。
- 9 コードを処理する。

準備するもの

次のものを準備してください。

- 工具（プラスドライバーなど）
- セロハンテープ
- はさみ
- 霧吹き（水500cc、中性洗剤を1～2滴入れておく）
- ペーパータオル

貼り付け位置について

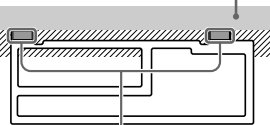
- ・フィルムアンテナは、検査標章や定期点検ステッカーと重ならないように貼り付けてください。（目安としては、フロントウィンドウの端から120mm 程度離れた位置です。）
- ・フィルムアンテナは、フロントウィンドウの車内側に貼り付けてください。それ以外の場所には貼り付けしないでください。
- ・道路運送車輛の保安基準第29条第4項第7号に適合させるため、また、性能を十分に発揮させるために、必ず下図の位置に貼り付けてください。
- ・左ハンドル車の場合も、左右逆には貼り付けず、下図のとおりに貼り付けてください。

貼り付け許容範囲について

フィルムアンテナの給電部は、セラミックライン（フロントウィンドウ端の黒セラミック部分や黒い点々部分）下端から25mm以内（貼り付け許容範囲）に貼り付けてください。

セラミックライン

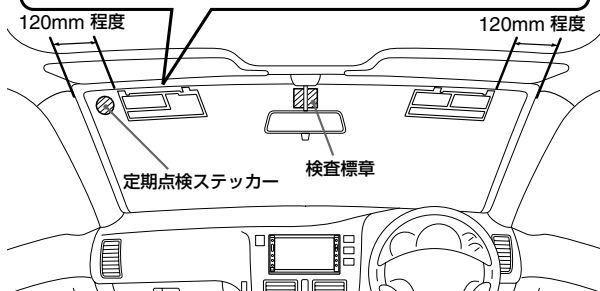
貼り付け
許容範囲
25mm以内



給電部

フィルムアンテナ（左）

セラミックラインにかからないように貼り付ける。

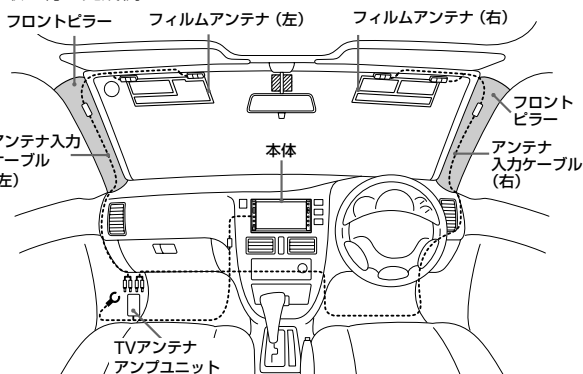


ご注意

ケーブルとフィルムアンテナを仮止めし、ケーブルの引き回しなどを十分に検討してから作業を開始してください。

1 フィルムアンテナの貼り付け位置やケーブルの引き回しなどを検討する

取り付け完成例

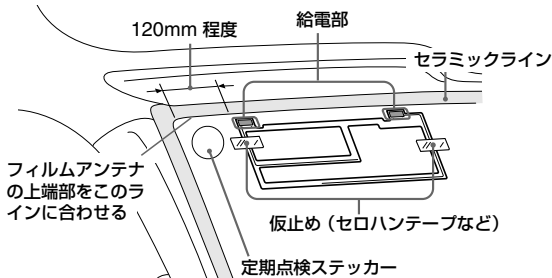


ご注意

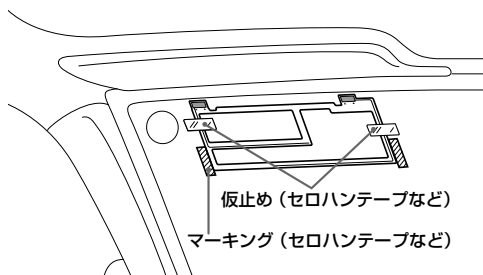
フィルムアンテナを一度取り付けると、粘着力が弱くなるため、貼り直してできません。必ずケーブルとフィルムアンテナを仮止めし、ケーブルの引き回しなどを十分に検討してから貼り付けてください。

2 フィルムアンテナ⑩の貼り付け位置を確認する

- 1 フィルムアンテナの給電部をセラミックラインの下端に合わせ、セロハンテープなどで仮止める。
ここではフィルムアンテナのはくり紙をはがさないでください。下図は車内側から見た左側の例です。右側も同様に貼り付けます。



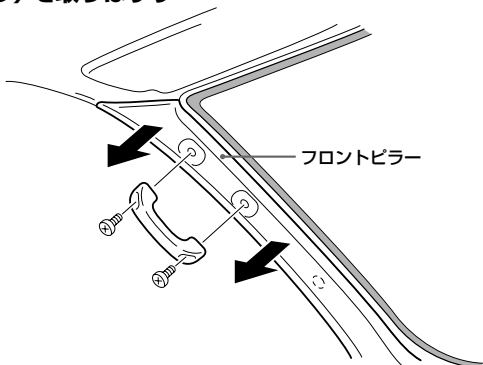
- 2 フィルムアンテナの左右位置を、セロハンテープなどでマーキングする。



3 フロントウィンドウ両端のフロントピラー（内張り）を取りはずす

ご注意

- フロントピラーの内張りはクリップやネジなどで固定されており、無理にはずすと、破損したり変形したりすることがあります。
- お客様自身が取り付けをされる際に、フロントピラーの内張りの取りはずし作業が困難な場合は、車のお買い上げ店やディーラーにお問い合わせください。（作業工費はお客様にご負担いただく場合があります。）



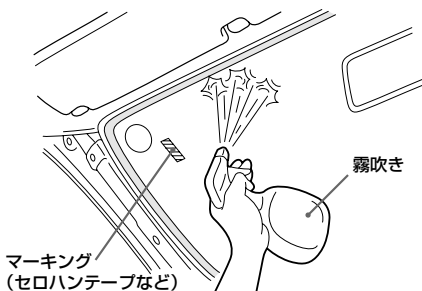
（上図は、ワンボックスやRV タイプなど、フロントピラー部にハンドルが装着されている車の取りはずし例です。）

フィルムアンテナをフロントガラスに貼り付ける

貼り付ける前に

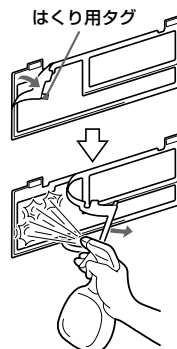
- 付属のアンテナ用クリーニングクロス⑯で、取り付け面の油やワックス、ほこりなどを拭きとっておいてください。
- 仮止めしたフィルムアンテナを取りはずしてから、貼り付けてください。
- ダッシュボードを水や洗剤で汚さないように、布やシートなどで覆ってください。
- フロントウィンドウの汚れ（ごみ、油など）やくもり止めを拭きとってから作業してください。

- 1 中性洗剤の水溶液を、霧吹きなどでフロントウィンドウ（車内側）に、十分に吹き付ける。
水500cc に対して中性洗剤1 ～ 2 滴が適量です。（水だけではうまく微調整できません。）



- 2 フィルムアンテナの貼り付け面側の透明シートをはがし、フィルムアンテナ貼り付け面に中性洗剤の水溶液を十分に吹き付ける。

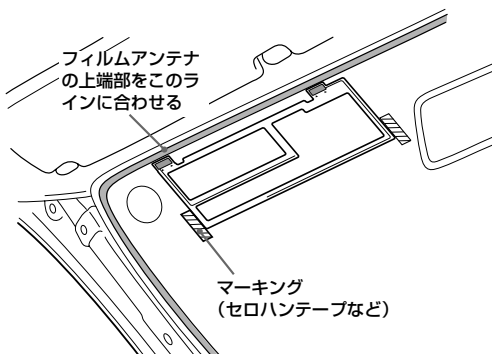
- 反対面（車内側）の給電部保護シートは、まだはがさないでください。（手順5-1 給電端子取り付け時にはがします。）
- はくり用タグを持ち、ゆっくりとはがしてください。
- フィルムアンテナの貼り付け面に、指紋やほこりなどが付かないように注意してください。



- 3 フィルムアンテナを貼り付ける。

貼り付け時のご注意

- フィルムアンテナの形状は左右で異なります。手順の図のとおり貼り付けてください。
- 上下位置はセラミックラインの下端に合わせ、左右位置はマーキング（セロハンテープなど）に合わせて貼り付けてください。
- 作業中にフロントウィンドウを乾かさないうちに、中性洗剤の水溶液を吹き付けながら作業してください。
- フロントウィンドウが濡れているうちに、貼り付けたフィルムアンテナをずらして、位置を微調整してください。
- 位置が決まったら、マーキングをはがしてください。



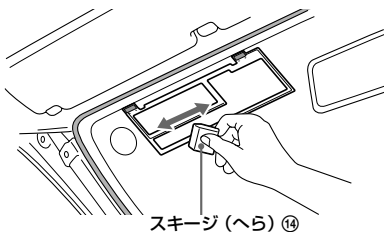
貼り付け時のご注意

- フィルムアンテナが動かないように押さえながら作業してください。
- フィルムアンテナの中央部分から先に作業すると、きれいに貼り付けることができます。
- アンテナにそって、気泡が入らないようにしっかり密着させてください
- あまり強くこすらないでください。

ご注意

乾く前に作業を始めると、フィルムアンテナがはがれやすくなります。

- 4** 付属のスキージ（へら）⑭でフィルムアンテナをしっかり密着させる。



- 5** ペーパータオルなどで中性洗剤の水溶液を拭き取り、十分に乾燥させる。

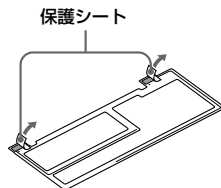
3～4時間放置することをおすすめします。

ドライヤーなどで無理に乾かさないでください。フィルムアンテナの破損の原因となります。

5

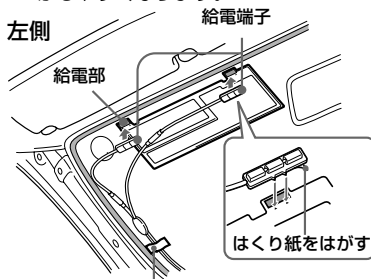
フィルムアンテナが完全に乾いていることを確認してから、アンテナ入力ケーブル⑪をフィルムアンテナ⑩に取り付ける

- 1** フィルムアンテナの給電部保護シートをはがす。

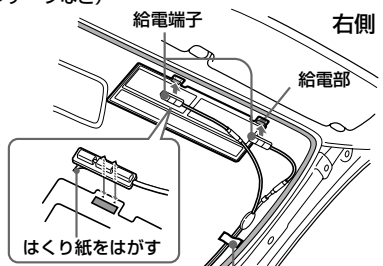


- 2** アンテナ入力ケーブル⑪の給電端子を、フィルムアンテナ⑩の給電部に取り付ける。

アース端子付近をセロハンテープで仮止めしておく、作業がしやすくなります。



仮止め（セロハンテープなど）



仮止め（セロハンテープなど）

ご注意

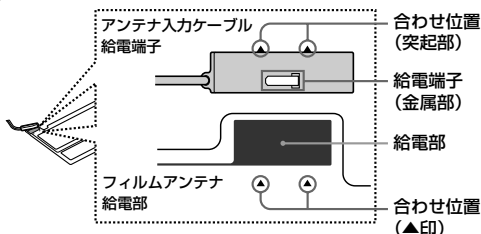
- ルーフヘッドライニングの端の部分を少し下げ、ケーブルをルーフヘッドライニング内に収めてください。
- ルーフヘッドライニングに無理な力を加えて、折り曲がらないように注意してください。
- 給電部に負担をかけないように、給電部を手で押さえないから作業してください。
- アンテナ入力ケーブルを強く引っ張ったり、ストレスやかみ込みがないように、コードを配線してください。

ご注意

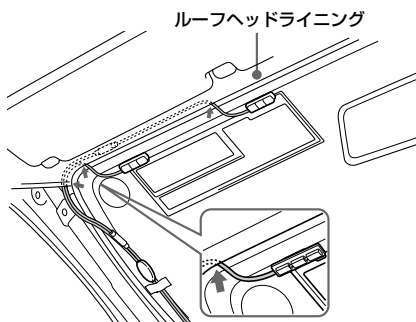
- 貼り付け面の汚れは、よく拭き取ってください。
- アーステープは、必ず車両の平らな金属部分に全体を貼り付けてください。平面でない部分や、クリップ穴部、ネジ穴部などには貼り付けしないでください。また、ボディの塗装をはがさないでください。

給電部への取り付けかた

アンテナ入力ケーブルの給電端子の突起部を、フィルムアンテナの▲印に合わせて貼り付けます。(下記はアンテナ入力ケーブルの給電端子と、フィルムアンテナの給電部を拡大したものです。)



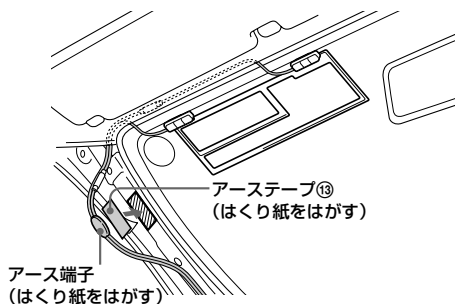
3 アンテナ入力ケーブル⑩をルーフヘッドライニング (天井の内張り) 内に配線する。



6 アンテナ入力ケーブル⑩を車に配線する

1 ボディーにアーステープ⑬を貼り付ける。

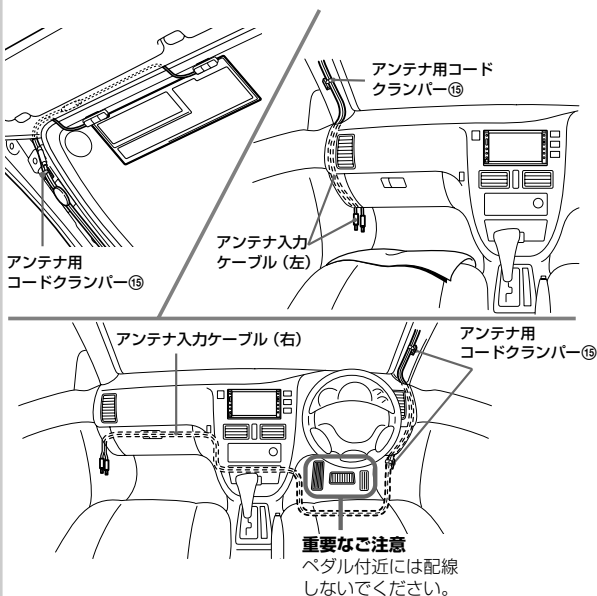
アンテナ入力ケーブルのアース端子が届く範囲内で、車の板金部の平らな部分にアーステープを貼り付けてください。



2 アーステープ⑬の上に、アース端子を貼り付ける。

アース端子のはくり紙をはがし、アーステープに全体を貼り付けてください。アーステープからはみ出したり、貼り付いていない部分がないことを確認してください。

- 3** 付属のアンテナ用コードクランパー⑮でケーブルを固定しながら、アンテナ入力ケーブルを配線する。
フロントピラーを取り付けたときにコードがかみ込まれない位置に配線してください。



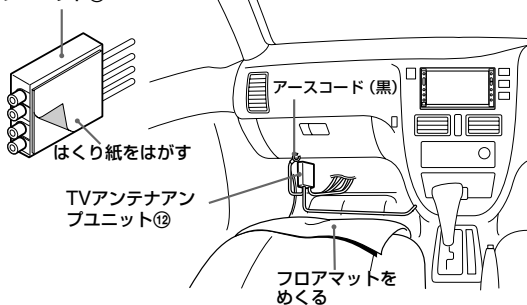
重要なお注意

コード類は運転操作の妨げにならないようテープなどでまとめてください。ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどに巻き付かないようにしてください。

7 TVアンテナアンブユニット⑫を取り付ける

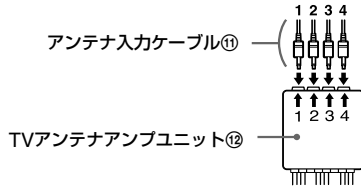
- 1** TVアンテナアンブユニット⑫を車両に取り付ける。ケーブルが本体に届く範囲内で、助手席足元の脇のフロア部分などに取り付けてください。(貼り付け面の汚れはよく拭き取ってください。)

TVアンテナアンブユニット⑫



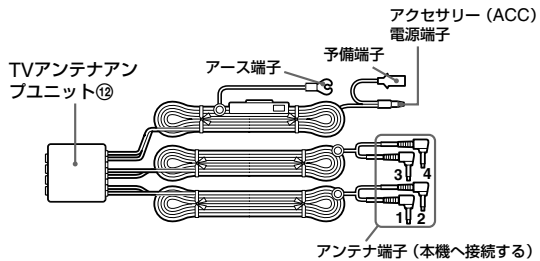
2 TVアンテナアンプユニットから出ているアースコードを、ボディーアースの取れる車両金属部に固定する。

3 アンテナ入力ケーブル⑪を、表示 (1、2、3、4) にあわせてTVアンテナアンプユニット⑫に接続する。



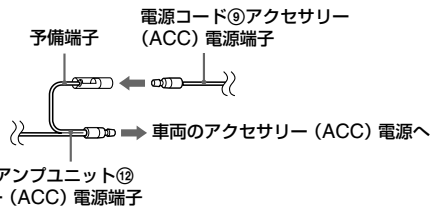
4 TVアンテナアンプユニット⑫のアンテナ端子 (L 型) を、本機に接続する。

1～4の黒いアンテナ端子は、本機のどのアンテナ入力に差し込んでも構いません。



5 予備端子は、電源コード⑨アクセサリ (ACC) 電源端子を接続する。

アクセサリ (ACC) 電源端子は、車のキーをLOCKかOFFにすると電源供給が切れて、ACCにすると電源が入るところ (ラジオ回路など) に接続します。



ご注意

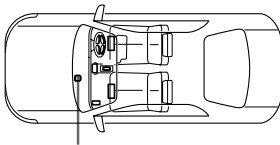
TVアンテナアンプユニット⑫のアンテナ端子 (L 型) を本機に接続するときは、最後までしっかり押し込んでください。

重要なご注意

- アクセサリ (ACC) 電源端子はすべての作業終了後に配線してください。
- 直接バッテリーには接続しないでください。

8 フロントピラー (内張り) を元に戻す

9 コードを処理する



GPSアンテナ

ご注意

GPSアンテナは、本体、VICSピーコンユニットNVA-VB5（別売り）と離して設置してください。近づけて設置すると、GPSの受信状態が不安定になることがあります。

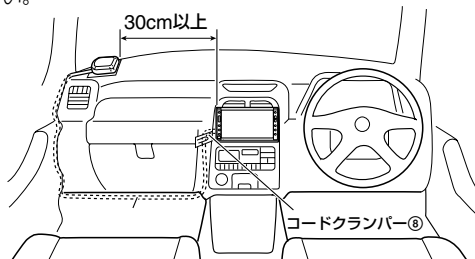
ご注意

- GPS衛星からの電波を遮るものがない場所を選び、できるだけ広く電波が受けられるように取り付けてください。車内に適する場所がない場合は、車外に取り付けてください。
- 一部のウィンドウガラス（フロント、リアとも）には、GPS衛星の電波を通さないものがあります。GPSアンテナを車内に取り付けて受信状態が不安定なときは、1度GPSアンテナを車外に取り付けて受信してみてください。

車内に取り付ける場合

ダッシュボードやリアトレイに取り付けます。平らな位置に、GPSアンテナが水平になるように取り付けてください。

- 両面テープで貼り付ける前に、車内のインテリアやワイパーブレードの陰に隠れないよう、正しく受信できることを確認してください。
- 水平な場所に取り付けられない場合は、取り付け面の曲面に合わせてGPSアンテナ取り付け板⑦を折り曲げてから取り付けてください。
- 取り付け面をきれいにしてから取り付けてください。
- 取り付け面の表面温度が低いと両面テープの接着力が弱くなるので、ヘアードライヤーなどで温めてから貼り付けてください。
- 必ずGPSアンテナ取り付け板⑦を使用して取り付けてください。使用しないと、十分な受信感度が得られません。
- エアバッグの妨げにならないように取り付けてください。
- 本機に近づけて設置すると、GPSの受信状態が不安定になることがありますので、30cm以上離してGPSアンテナ⑤を取り付けてください。

**ご注意**

必ずGPSアンテナ取り付け板⑦を使用して取り付けてください。使用しないと、十分な受信感度が得られません。

GPS アンテナ取り付け板⑦の中央にGPSアンテナ⑤を載せ固定する

両面テープで貼り付ける前に、車内のインテリアやワイパーブレードの陰に隠れないよう、正しく受信できることを確認してください。

ご注意

- 取り付けるときは、車のボディを傷付けないように静かにおいてください。
- コードを車外でたるませたまにしないでください。
- コードを固定するときは、必要に応じて付属のコードクランパー⑧をご使用ください。
- 取りはずすときにコードを引っ張らないでください。磁石が強力なため、コードが抜けることがあります。
- 自動洗車機で洗車するときは、GPSアンテナを外してください。GPSアンテナが外れて車のボディを傷付けることがあります。
- GPSアンテナケーブルは、GPSの信号とGPSアンテナへの直流電源が通っています。配線にあたっては、車体可動部へのかみ込みにご注意ください。ケーブルを破損すると、GPSアンテナおよびナビ本体の故障の原因となります。

アルミやFRPボディの車に取り付ける場合

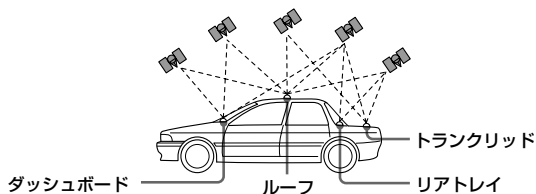
アルミやFRPボディの車には磁石で取り付けられませんので、車内に取り付けてください。

GPSアンテナの塗装について

GPSアンテナは車のボディーカラーに合わせて塗装できますが、金属粉が含まれる塗料（メタリック系の塗装など）は、受信感度の低下や受信不能の原因になるため使用しないでください。また塗装するときにGPSアンテナを分解しないでください。

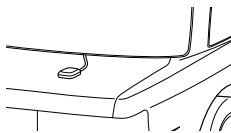
車外に取り付ける場合

GPSアンテナ⑤は磁石で取り付けます。GPS衛星の電波が車のボディなどで遮られない場所（車外のルーフやトランクリッドなどに、水平に取り付けてください。



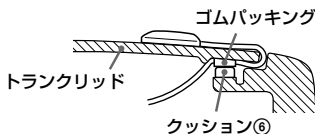
1 トランクリッドなどの上に取り付ける

取り付け面をきれいにしてから取り付けてください。



2 トランクリッドの裏側にクッション⑥を取り付ける

雨水がコードを伝わって車内に侵入しないように、トランクリッドを閉めたときに、ゴムパッキングの上にクッション⑥が当たるように取り付けてください。



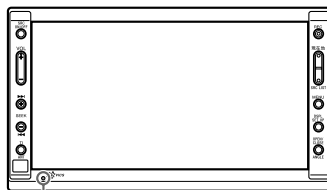
必要に応じコードクランパー⑧で固定してください。

車のエンジンをかけて起動させる

- 1 取り付けや接続に誤りがないか、各コードは確実に接続されているかをもう一度確認する。
- 2 エンジンをかける。
- 3 ブレーキランプやライト、ホーン、ウィンカー、ワイパーなど、すべての電装品が正しく動作することを確認する。
- 4 RESETボタンをつまようじの先などで押す。

ご注意

- 針のようなもので強く押すと故障の原因となります。
- RESETボタンを押してから10秒間は、ディスクを入れないでください。リセットされないことがあります。その場合は、もう一度RESETボタンを押してください。



リセットボタン

- 5 本機が正しく動作をするか確認する。

故障かな？と思ったら

症状	原因および処置
電源が入らない。 音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・アース用コード（黒色）、アクセサリ電源用コード（赤色）、バッテリー電源用コード（黄色）が正しく接続されていない。 ・スピーカー接続時、スピーカー出力の設定が正しくない。 →2スピーカーで聞くとときは、スピーカーバランスをフロントにしてください。 ・スピーカーコードが外れている。 ・ヒューズが切れている。→ヒューズが切れた原因が不明な場合は、お買い上げ店にご相談ください。 ・電源コードが正しく接続されていない。 ・車のバッテリーが正しく接続されていない。
車のライトをONにしても イルミネーションが点灯しない。	イルミネーション電源用コード（橙／白色）が正しく接続されていない。
フロントスピーカーと リアスピーカーの音が 逆に出る。	<p>スピーカーコードが逆に接続されている。 →スピーカーコードの接続を確認してください。</p>
テレビが映らない。	<ul style="list-style-type: none"> ・フィルムアンテナのアンテナ入力ケーブルとTVアンテナアンプユニットが接続されていない。→「フィルムアンテナを取り付ける」を参照し、アンテナ入力ケーブルとアンテナアンプユニットを接続してください。 ・若草色コードと車両側のパーキングブレーキスイッチコードが接続されていない。→接続してください。
画面がつぶれる、流れる、色が つかない。	<p>各コネクタが確実に差し込まれていない。 →接続ポイントをすべて確認してください。</p>
画面に線、斑点状のノイズが 現れる	接続コード、TVアンテナアンプユニットからのコード、電源コードなどの各コードは、できるだけ離して取り付け、配置してください。
ラジオが受信できない。 雑音しか出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・リアまたはサイドガラスに内蔵しているプリント線状のFM/AMアンテナの場合、パワーアンテナコントロールコード（青色）または、アクセサリ電源用コード（赤色）を、純正アンテナプースターの電源供給コード（車両側）に接続してください。くわしくは、お買い上げ店にご相談ください。 ・パワーアンテナが上がっていない。 →パワーアンテナコントロールコード（青色）の接続を確認してください。 ・アース用コード（黒色）が正しく接続されていない。 ・FM/AMカーアンテナが正しく接続されていない。
テレビやビデオ、音楽など、 音声に雑音が入る。	<ul style="list-style-type: none"> ・アンテナ入力ケーブルや電源コードなどの各コードは、できるだけ離して取り付け、設置してください。 ・周辺地域のラジオ放送の周波数と重なって、その影響を受けることがあります。違う周波数に再設定して確認してください。
テレビが受信しづらい。	<ul style="list-style-type: none"> ・フィルムアンテナのアンテナ入力ケーブルのアース端子が、正しく取り付けられているかを確認してください。 ・車種によっては、電波を通さないガラスを使用している場合があります。くわしくは、お買い上げの販売店にご相談ください。

症状	原因および処置
GPSを受信しない。 (自転車位置が動かない。)	<p>GPSアンテナが正しく接続されているか確認してください。 GPS受信状態を確認するには：「現在地」→MENU→「情報」→「GPS受信状況」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本体のRESETボタンを押してください。→GPSのアンテナ端子が確実に接続されているか確認してください。 ● 車内にGPSアンテナを取り付けている場合 <ul style="list-style-type: none"> － 必ず付属のGPSアンテナ取り付け板をご使用ください。 － 車種により、GPS衛星からの電波を通さないガラスを使用している場合がある。GPSアンテナを車外に取り付けてください。 － ガラスの電熱線やワイパーなどで、電波が遮られている場合がある。GPSアンテナの取り付け位置を変えてみてください。 － GPSアンテナを車外に出して、受信できるか確認してください。GPSアンテナを車外に出して受信できた場合は、GPSアンテナの設置場所を変えてみてください。 ● 地下駐車場やビルの谷間などでは、GPS衛星の電波がさえぎられて受信できない。見通し良い場所に移動して再確認してください。
自転車位置がずれる。	<ul style="list-style-type: none"> ● GPS衛星からの電波の誤差が大きい（GPS衛星からの電波は、最悪時で数百メートルの誤差があります）。 ● 自律航法の学習が終了していない。取り付け直後は学習が完了していないため、誤差が大きくなることがあります（しばらく走行すると正しい測位をします）。 ● 取り付けが正しく行われていないため自律航法/マップマッチングの誤差が生じています。自転車位置を正しく表示するには、本機を正しく取り付けることが重要です。本書「取り付けと接続」に従い、正しく取り付けられているか確認してください。正しく取り付けられていないと、自転車位置がずれることがあります。 <ul style="list-style-type: none"> － 車速センサーコードやGPSアンテナが正しく確実に接続されているか確認してください。接続状態を確認するには：「現在地」→MENU→「情報」→「接続情報」 － 車速センサーコードを接続している場合は、必ずバックランプの電源コードへの接続も行ってください。接続しないと、自転車位置がバック時に前進表示され、ずれてしまいます。 － GPSアンテナは、本体やビーコンユニット、レーダー探知機、携帯電話から離して設置してください。近づけて設置すると、GPSの受信状態が不安定になることがあります。 ● GPSアンテナをGPS衛星からの電波を遮る障害物のない位置に設置して、GPSアンテナの受信状態を確認してください。 GPSの受信状況を確認するには：「現在地」→MENU→「情報」→「GPS受信状況」

ソニーFAXインフォメーションサービスのご案内 (FAX付電話でご利用になれます)

カーフィッティングFAXサービス 車種メーカー、車種・車種形式別の

カーオーディオ部の取り外し方法、各種センサー位置等の資料

①インデックスの入手/03-3552-7209 →車種メーカー別のBOX番号を受信

②資料請求/03-3552-7488 →アナウンスに従いご希望の車種の該当BOX番号
を入力してください。

24時間

お手元のFAXで

資料が取り出せます

- ソニーFAXインフォメーションサービスをご利用の際のインデックス入手料・資料請求は通話料のみお客様のご負担となります。またFAXの機能によっては受信できない場合があります。
- FAXサービスのメンテナンス日は 毎月第2木曜日 午前8:00～午後11:00となっております。ご迷惑をおかけしますが、当日前記時間帯は資料を取り出すことはできません。ご了承ください。(第2木曜日が祭日の場合は前日の水曜日をメンテナンス日とさせていただきます。)

上記のFAXインフォメーションサービスに加えて、インターネットでもご覧になれます。

カーフィッティングWebサービスのご案内

<http://www.mobile.sony.co.jp>

商品の修理、お取扱い方法、お買物相談などの問い合わせ

● <http://www.sony.co.jp/SonyDrive/>

お客様相談センター

● ナビダイヤル ☎0570-00-3311

(全国どこからでも市内通話料でご利用いただけます)

● 携帯電話・PHSでのご利用は...03-5448-3311

(ナビダイヤルがご利用できない場合はこちらをご利用ください)

● FAX 0466-31-2595

受付時間 : 月～金 9:00～20:00 土・日・祝日 9:00～17:00

お電話は自動音声応答にてお受けしています。



正しい取付け
正しい操作で
安全運転

ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川 6-7-35



- 主なはんだ付けに無鉛はんだを使用しています。
- 包装用緩衝材に発泡スチロールを使用しません。
- 包装用緩衝材に段ボールを使用しています。
- この説明書はVOC(揮発性有機化合物)ゼロ植物油型インキを使用しています。

2RR6P12A25000A